

オーディオの総合誌 ステレオ

Stereo

2012
October

10

[特集]

長く付き合いたい! 真空管アンプの魅力と底力

— 注目機試聴テスト・真空管事情・使いこなし入門 —



[特別企画]

コンポの性能をフルに引き出す
電源系接続術をマスターせよ!

EL34 パラプッシュプル

EAR 834 Custom ¥512,400

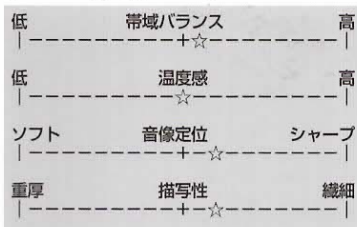


- 使用真空管：EL34 × 8、ECC83 × 2、ECC85 × 2
- 出力：50W × 2
- 入力インピーダンス：47k Ω
- 出力インピーダンス：8 Ω、16 Ω
- 周波数特性：15Hz ~ 40kHz (3% THD 以下)
- 入力端子：RCA × 6
- 出力端子：REC OUT × 1
- 消費電力：300W
- 大きさ：405W × 150H × 405Dmm
- 重さ：20kg
- 問い合わせ先：ヨシノレーディング ☎0533-75-6306

King of Tube の異名を持つティム・デ・パラヴィチーニ氏のブランド。ベストセラー・プリメイン834にチヨークを追加するなど日本特有の電源環境に合わせてアレンジを加えた日本限定バージョン

伴奏ギターはゆったりと響く & 声もきわめてスムーズ

EL34 (ロシア製あるいはスロバキア製) を使ったパラレルプッシュプル。出力は50W。日本限定特別バージョン (しかも限定100台) であり、投入されている物量は価格帯の水準をはるかに超えていると聞く。



女性ボーカルの伴奏ギターは、ほかのどれよりもゆったりと響く。余計な緊張感がなく、他のアンプではうしろに隠れていたようなニュアンスが、ものの見事に中空でほどけていき、声もきわめてスムーズに発せられる。スピーカーの振動板が軽いものに替わった？ それに近いような変化だ。フルオケも、ガツンと迫ってくる全体像より、パートごとの弾き方・吹き方に心が向く。実況録音の拍手もやさしくまるやか。三味線の鼓までもがその音調で立ち上がる。民謡の声は多少軽く、津軽臭さも薄めだが、このアンプを作った人たちはもともと違うことに目を向けているようだ。ジャズのかきむしりアコースティック・ベースも他のアンプは「パチツ」とはじくピチカートの上上がり方に力点があるのに、このアンプはそのあとブルブル震える弦とホルトーンに重きを置いているように聞こえる。そのあたりの傾向はヴィンテージもののニューヨーク・スタインウェイでも変わらず、「ガツン」のエネルギー量を競うのではなく、他のアンプで混濁してしまうところをわかりやすくほどこいたり、ホルトーンの中にひそむニュアンスを明らかにしたりすることを大切にしているかのようだ。

■コントロールアンプ

EAR
868PL
¥1,029,000

EAR代表ティム・デ・パラヴィチーニはオーディオ用トランスの権威とも言われるつくり手。本機は同ブランド最高級アンプEAR 912のノウハウをふんだんに盛り込み、トランスと使用真空管(PCC88(7DJ8)×4本)との絶妙なマッチングが図られている。なお、フォノセクションを搭載しない「868L(¥732,900)」も用意されている。



- 入力端子：RCA×5 (PHONO 1系統含む)、XLR×1
- 出力端子：RCA×2、XLR×2
- 録音入出力：1系統 (RCA)
- SN比：90dB (ラインアンプ、1V out ref)
- 大きさ：380W×100H×305D mm
- 重さ：10kg
- 問い合わせ先：ヨシノトレーディング ☎050-3375-3975、0533-75-6306



穏やかながらリアルで鮮やかなボーカル

独自技法で製作されたオリジナルトランスとPCC88を4本使用して構成される、真空管・トランスカップリング技術を採用したフォノ回路内蔵コントロールアンプ。解像度、SN比も高く、音の分離感も充分だ。非常に音楽性が豊かで、倍音成分の華やかさがサウンドに彩りを添える。低域は厚みを持たせながらアタックのキレを見せ、弾力良い。ボーカルは穏やかであるが、リアルで鮮度良い描写だ。□元はウエットな艶に溢れ、すっきりと空間に浮かびあがる。弦楽器のエッジ感と甘い余韻の響きのバランスが絶妙で、軽快なエレキのリフを含め、心地良い音色を聴かせてくれた。音場の奥行も深く、音像の丁寧で粒立ちまるやかな質感描写は円熟味のある独特なタッチだ。

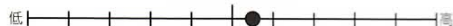
●岩井

拍手をする手の大小・強弱が見える

同社製管球式コントロールアンプの最高峰EAR 912に採用した真空管、トランス、回路、MCカートリッジ用昇圧トランスを含むフォノイコライザーを惜しげなく投入したハイC P比モデル。女性ボーカルは、この日聴いた中でもっともみずみずしい。伴奏ギターも楽器を何倍か高価なものに持ち替えたような変化。バリトン歌手も若々しくなり、フルオケと一体化。実況録音の拍手は、大小様々な手が強弱の異なる叩き方をするという理想的な再生(こういうの滅多にない!)。人数もかなり増えたかのように聴こえる。荒々しく刺激的な音、汚い音が好きだという人でなければ、安心して推奨できる優れものだ。

●村井

帯域バランス



温度感



描写性



音像定位

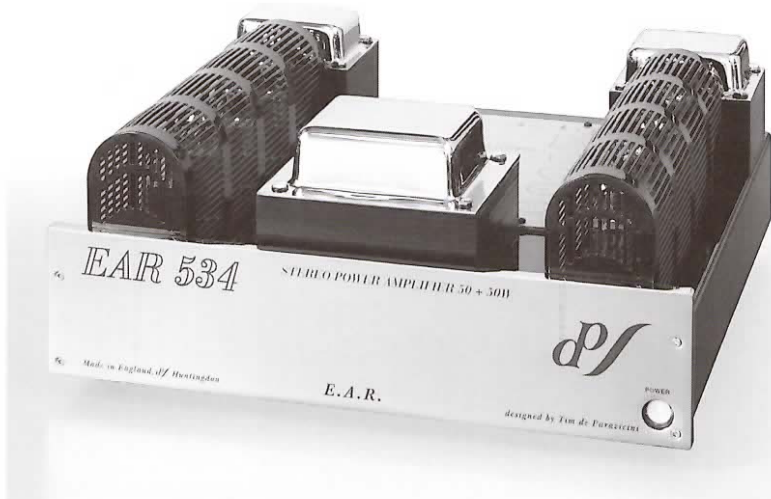


■パワーアンプ

EAR 534

¥723,450

トランスは、EAR 代表ティム・デ・パラヴィチーニ自らデザインの超広帯域オリジナル品を採用。最小限 NFB、DC 化サーキット、パラレルシングルプッシュプルクラス A 動作で、本来のモノラル設計が基本となっている。使用真空管は ECC83 (×2)、ECC85 (×2)、EL34 (×8)。



- 入力端子：RCA×1、XLR×1（モノラルスイッチ付き）
- 出力：50W/ch (8Ω)、100W(8Ω, Mono)
- 周波数特性：15Hz～40kHz (THD3%以下)
- SN比：92dB
- 大きさ：405W×150H×405Dmm
- 重さ：21kg
- 問い合わせ先：ヨシノトレーディング

楽曲の本質を心から捉え的確に描写

EL34をチャンネルあたり4本用いたパラレルシングルエンド・プッシュプル方式によるA級パワーアンプ。プリメイン8L6のパワー版となる。音像の質感は流麗な艶を持ったリッチなタッチで厚みのある濃密なサウンドだ。音場の深さやリアリティも充分で、躍動感に溢れている。ボーカルは肉厚で豊かな張り出しと口元の色っぽい艶やかさが際立つ。ウッドベースの旋律はまるで胸鳴りは弾力良く響く。弦楽器の旋律も滑らかで管楽器は太く安定した音伸びを見せる。定位のフォーカスはほどよいシャープさでエッジは甘めに処理され聴きやすい。傾向としてはリッチ&ゴージャスな鳴りであるが、楽曲の内面に潜む熱い本質を心から捉え的確に描写するさまはさすがである。

●岩井

独自の存在感と吸引力・説得力

ベストセラー・プリ・メインアンプ8L6をベースにつくられたパワーアンプ。EL34（露製あるいはスロバキア製）を使ったパラレルプッシュプルで、出力は50W（モノラルとして使うと100W）。伴奏ギターは、弦が細身でしなやか。女声もさわやかでみずみずしい。しかしそれがただ聴きやすいだけにとどまらず、独自の存在感と吸引力・説得力につながる稀有なアンプだ。フルオケは弦楽奏者が増えたかのような。間接音成分の密度が高く、ホールにいるような気分を味わうことができる。バリトン歌手は若々しく力強い。拍手はあたたかく、わずかにウェット。民謡は声のしわがれ方がリアル。でもそれは決して下品にならない。バズドラもすこぶる充実。

●村井

帯域バランス



温度感



描写性



音像定位



kHzまでの対応となっている。
貴重な存在に思える

一聴して個性派の音であり、音楽的な表現力の高さを感じさせる。まず特徴的なのはその低音だ。量も多いがどっぶりとした深みのある低音で、何かをスポイルすることなくウッドベースのリズムはタイトに聴こえてくるし、コード進行や歌のニュアンスといった音楽的な部分の表現力が高い。クラシックではホルトーンが多めに感じられ、音場は左右方向に広め。シックな音色感で、高域の繊細な感じなども特徴的だが芯のある音で、音像の輪郭を明確に描いてくる。

ちなみに脚は3点で、電源スイッチは向かって右サイドにあり、それぞれの操作ボタンの押し心地もかっちりとしたもの。またトラックを送ると短い時間でフェイドアウトして、次のトラックがフェイドインしてくるなど、国産のCDプレーヤーとはさまざまな面で違っているのも興味深い。この価格帯のみならず貴重な存在に思える。

EAR Acute III

タイム・デ・パラヴィチーニのEAR

で、現在のところ唯一ラインアップされるCDプレーヤーは、実はパラヴィチーニにとって初のデジタルプレーヤーだ。アナログレコードの奏でる音楽が音楽再生芸術の最高峰であると語り、デジタルがアナログとほぼ同等のクオリティになるには、最低でも500kHz/24ビット以上は必要と説

く、パラヴィチーニだが、さすがに素晴らしい音を持っている。特徴的な回路構成としては、デジタル信号はすべてアナログフィルターを経由して、他のEARのプロ用オーディオ機器と同様にトランスを経て、PCC88を2本使った出力段へ送られる。また、アナログ式ボリュームや光TOS、同軸、

USBのデジタル入力も持っている。
「濃厚だが後味のいいスूप」と言えはいいだろうか

一聴して高級な音だと納得させられてしまうのだが、音自体が静かでキメ細かく、実によく音がほぐれている。音場空間の透明度がとても高く、繊細な表情や演奏のニュアンスを伝えてくる。同時に低音に特有のコクがあり、音の感触としては実に滑らかで心地よい。ただし、すべてを自分の音に染めてしまうモノトーンとも別次元の表現で、楽器の質感やそれぞれの音色感を正しく表現できるのも出色の製品だ。

ボリュームがあるのでパワーアンプに直接入力してみたが、さらにハイファイ性能が高くなりつつ、どっぶりとした特有の音の度合いが高まるのには舌を巻いた。濃厚なのだが、後味のいいスूपを飲んだ時のようなすつきりとした感触と言えはいいのだろうか。鳴っている音楽をBGM的に聞き流せなくなる度合いが非常に高い。入力セクターがなく、自動的に自分の優先順位で切り替わる等、やや使いにくい面もあったが、あの音の魅力の前では個人的には気にならなかった。秀逸である。



■ CD プレーヤー

EAR Acute III ¥924,000 (※)

●アナログ出力: RCA×1、XLR×1 ●デジタル出力: 光×1 ●デジタル入力: 同軸×1、光×1、USB (Type B)×1 ●周波数特性: 20Hz~20kHz ●歪率: <1% ●使用真空管: PCC88/6DJ8×2 ●大きさ: 435W×95H×320D mm ●重さ: 8kg ●問い合わせ先: ヨシノトレーディング ☎050-3375-3975、0533-75-6306 ※Chrome仕様価格。Black仕様は ¥837,900



フロントパネルにはアナログ式ボリュームが装備されており、ダイレクトにパワーアンプに接続して駆動することが可能。またパソコン等をつないでのDACプリの使用が可能な点も魅力のひとつだ